



空からおりてはこれないかい

# 小さな 「 思い 」

葉月まゆみ

わたしたくない

---

街の灯に雲が白く光って

まるで君を迎えに来たようだね

君を誰にもわたしたくないのに

地上での役目を終えて

君は行ってしまうの？

またたく星が君を呼んでるみたいだ

## 奇跡

---

二度も奇跡を見せてくれたのだから

三度目はもうぜいたくかい？

でもがんばって、まだまだ君と

わかれたくないよ。

AM 11 : 00 前

---

陽の照るのもいとわしい

時のたつのもいとわしい

この悲しみが

過去になるのがいとわしい

ずっと先

---

春が来て

猫たちは忙しげに夜の街をかけて行く

オリオンがまわり、北斗がまわり

君をおいて季節がまわる

いや、君はそれよりずっと

先に行ってしまったんだね

## 禁句

---

口にしてはいけない言葉のように

君の名がおもい...

呼んでも返らない むなしさ

いないことを何度も確認する かなしさ

しあわせの言葉が

しあわせの言葉が

悲しみの記憶と

つながってしまったから...

## 天使の羽毛

---

舞い降る雪

舞い降る雪

天使の羽毛のように大きくやわらかく

ああ、地上をおおいつくす

おまえ...おまえ、

この雪に乗って帰っては来れないか？

からから

---

お前が死んで

わたゴミが供給されなくなった

古いわたゴミが出てくると

お前を思い出して沈んでしまう

わたゴミを出したお前の体は

もえてからからの骨になった

もうわたゴミは出てこない



とんでおいで

---

とんでおいで

空の上から

君の小さな体なら

きっと抱きとめられるから

# 青ぞら

---

君のいる空は青く青く澄んで

あまりにも遠すぎる 遠すぎる

小さな小さな君の姿は

いくら見つめても見えはしない

## 小さな「思い」

<http://p.booklog.jp/book/42064>

著者：葉月まゆみ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/walhall/profile>

著者HP：<http://walhall-hotline.appspot.com/>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/42064>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/42064>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.